平成29年度第１回横浜市学校規模適正化等検討委員会　会議録	
日　　時	平成29年６月28日（水）10時00分～11時40分
開催場所	関内駅前第一ビル３階　302会議室
出　席　者 （９名）	小松委員、野木委員、平井委員、片岡委員、村田委員、森川委員、諏訪部委員、小島臨時委員（部会長）、長谷川臨時委員（部会長）
欠　席　者 （２名）	内海委員、奈良輪委員
開催形態	一部公開（※）（傍聴者０人）
議　　題	１　部会からの報告について ２　通学区域と学校規模適正化等について〈非公開〉
決定事項	１　日吉台小学校第二方面校開校準備部会の意見書をもって横浜市学校規模適正化等検討委員会の結論とすることを決定した。（答申書の内容承認） ２　緑園地区義務教育学校開校準備部会の意見書をもって横浜市学校規模適正化等検討委員会の結論とすることを決定した。（答申書の内容承認） ３　議題２については、非公開とする旨を決定した。 また、横浜市学校規模適正化等検討委員会の部会を設置し、検討を進めていくことを決定した。
議　　事	１　部会からの報告について （１）日吉台小学校第二方面校開校準備部会より意見書の提出 （２）緑園地区義務教育学校開校準備部会より意見書の提出 （３）「上菅田小学校・笹山小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会における検討状況について
質疑・意見 議事１	（１）日吉台小学校第二方面校開校準備部会より意見書の提出 （部会長） 意見書についての補足をさせていただきます。 日吉地区と綱島地区の両方にまたがって、新しくできる学校ということで関係者がとても多く、部会委員は全部で28名でした。 新しい学校を作るために、部会で審議する内容は、いくつかありますが、その中でも、特に通学区域をどこまでの範囲にするか、ということが、一番大きな課題でした。部会の委員のみなさま、特に現在お子さまが小学生のPTAの方たちには、実際に子どもたちを通学させることを考えて、それぞれに思いはありましたが、議論の結果、意見書のとおりとなりました。 また、学校名案については、関係する小学校の児童や地域から、多くの案をいただきました。学校の名前ということで地名に由来するものが大変多く、子どもたちからは、『箕輪にできる学校ですから「箕輪小学校」』という意見が、一番多くありました。ただ、低学年の子どもには、この「箕輪」という漢字が難しく、ひらがなで「みのわ」と書いてくれる子も多かったです。たくさんいただいたアンケートの結果を参考に、部会で議論し、最終的に「箕輪小学校」に決定いたしました。 以上、簡単でございますが、補足説明をさせていただきました。地域のみなさま、保護者のみなさまが、検討に検討を重ねた結果を意見書としてまとめておりますので、審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。 （委員）

	通学区域や通学路について、新しい学校に入るために今よりも通学距離などが遠くなった子どもたちもいるのではないかと思いますが、そういう点についてはいろいろとご意見等があったのでしょうか。 （事務局） 通学路の距離ということでは、分離新設ということですので、どちらかというと近くなる方のほうが多い状況となっています。 （委員） 小学校も中学校も特別調整通学区域が広くなっていますが、そこに至った経緯というか、その時の要望、地域や保護者・児童生徒の意見、懸念があれば、教えていただければと思います。 （事務局） 中学校については、新しい学校ができて、６年間同じ仲間で過ごして、中学校に行くときに別れるというのは、中学校に上がってからのギャップという問題もありますので、やはり同じ仲間で一緒に同じ中学校に通えるようにしたほうがいいのではないかという意見が、委員のみなさまからありました。今回の新設校の通学区域は、日吉台中学校と樽町中学校の２校に分かれる形になってしまいますので、どちらか一つの中学校に通学区域を合わせようかという議論になりました。日吉台中学校の敷地も非常に広いですし、教室数も余裕があるということもありまして、日吉台中学校に基本的に通学区域を変更しようとなりましたが、綱島エリアのみなさんにも配慮するということで、通学区域は日吉台中学校と一致をさせますが、樽町中学校も選択できるというところを残したというのが、中学校の状況です。 小学校の部分につきましては、矢上小学校の通学区域が非常に南北に広い状況にあり、矢上小学校の通学区域はこのままにしたいという一方で、新設校が目の前にできて、そこを横に見ながら矢上小学校に通うのはどうかという声もあるだろうというところで、やはり選べるほうがいいだろうとなりました。範囲については、部会の中でもいろいろと案がありまして、もう少し東側の範囲を広げたほうがいいのではないかとかありましたが、やはり通学路としては、複雑にならないほうがいいだろうというところと、特別調整区域についてはある程度限定したほうがいいのではないかというご意見もありまして、現状の案に落ち着いたという状況となっております。 （部会長） 通学区域をどこまでの範囲にするか、ということが一番大きな課題でした。 中学校の問題については、もうすでに日吉台中学校は 1,000 人を超えていますので、これからここの新しい小学校に隣接する約 1,400 世帯のマンションができますと、中学校が一体、何人になってしまうのかという懸念はしています。 （委員） 中学校の立場としては、これから日吉台中は一体どのくらい大きくなっていくのか、またそれによって、教育的な効果というのがどの程度厳しくなってくるのかというのが気になるところです。

	（事務局） 今回中学校としては、規模の大小に関係なく、部活などのいろいろな場面において、子どもたちがしっかりと活動できるような状況をつくり、十分に寄り添って対応しているということですので、学校の規模は大小あるけれどもそういった対応をしていきたいというようなお答えをいただいております。 （委員長） それでは、本検討委員会における審議の結果としては、部会でまとめていただいた、この意見書をもって本検討委員会の結論とし、「日吉台小学校第二方面校新設に関する意見書」のとおり教育委員会へ答申する、ということでよろしいですか。 （異議なし） （委員長） それでは、平成 28 年５月 10 日付けで諮問のありました件について、別紙の「日吉台小学校第二方面校新設に関する意見書」のとおり答申することを決定いたしました。答申書及び意見書は部会長からご提出いただきたいと思います。いろいろな意見が出る中で、子どもたちの教育環境をよくするために部会長をはじめ部会委員の方々に熱心にご議論いただきました。ありがとうございました。 これにて、日吉台小学校第二方面校開校準備部会に関する議事は終了とさせていただきます。
	（２）緑園地区義務教育学校開校準備部会より意見書の提出 （部会長） 意見書についての補足をさせていただきます。 この緑園という地区についてですが、通学区域内や沿線に大学等が存在するなど、特色ある教育が期待できる、環境に恵まれた地区です。教育熱心な当地区における長きにわたっての中学校設置要望に応えるべく、義務教育学校の開校に向け、地域の方々、保護者の方々、学校関係者の方々、皆さまが本当に真剣に考え、約半年間にわたり検討を進めてまいりました。 まず、通学区域案ですが、緑園西小学校と緑園東小学校の現行通学区域を合わせた通学区域を基本とする案を部会の意見としておりますが、子どもたちが新しい学校で大きく育っていくためには、適正な学校規模を維持していくことが必要だと考えております。今後も、周辺状況に配慮しながら通学区域を広げることを検討いただきたいと思っております。 次に、学校名案についてですが、条例上の学校名を「横浜市立緑園義務教育学校」、規則上の学校名を「横浜市立義務教育学校　緑園学園」として、部会の案とさせていただきました。緑園西小学校にも緑園東小学校にも「緑園」がついているため、子どもにも地域にもなじみのある、親しみやすい名前だと考えております。 通学安全については、新しい学校の開校までには、周辺環境が変わる可能性もありますので、子どもたちの安全が十分に図られるよう、引き続き検討していく必要があると考えております。 以上、簡単でございますが、補足説明をさせていただきました。地域のみなさま、保

	護者のみなさま、学校関係者のみなさまが、検討に検討を重ねた結果を意見書としてまとめておりますので、審議のほどよろしくお願いいたします。 （委員） これまでと違ったどのような内容の教育がこれからされるのか、お聞きしたいと思います。 （事務局） 霧が丘小中学校・西金沢小中学校が、それぞれ昨年と今年の４月から義務教育学校となりました。それぞれ学校の特質を生かして、様々な形で小中間の交流を図っております。昨今特に中１ギャップということで、急激に学校生活が変わってくるというところで、生徒の戸惑いがある中で色々課題が出ているようなところですが、この両校についてはそういったところで、後期課程へのスムーズな移行が図られているというのが特性になっておりますので、新しくできる緑園の学校につきましても、敷地一体型となりますので、そういったことを事務局としては期待できるかと考えております。 （委員） 地域として、こういう一貫校を望まれているということで、提案があるのだろうなというところでは、理解するところです。ただ中学生が減っていくということで、子どもたちというのは集団の中で切磋琢磨していく良さというのがあるので、だんだんと学校が小さくなっていくことをあえてやるというのは、どうなのかなというのは思います。ただ、地域の方が望まれて、義務教育学校として、より地域性に合わせて学びを深めたいというお気持ちで、こういう思いがあるというように解釈しますと、それはそれで意味があり、逆にどんどん小さくなっていく学校をこういう形でまた活性化していくという方法もあると思います。その辺りのとらえ方が、何を目的にされているか、それが明確ならば意味がある、そんなように思います。 （委員） 意見書のむすびの中にも書かれたところで、義務教育学校に対しての思いと期待と不安と色々とあるのではないのかなと推測しますが、こういった学校を設置していって、設置しただけではなく運営していくというときに義務教育学校のメリットだとか課題に対して、例えば地域に対してもこういう目で見てほしいとか、こういうところが特色だからというようなところをもっとアナウンスしていただきたいと思います。もちろんちょうど新しく学校ができるというところでもありますので、そこのところを場合によっては意見を聞いていただきながら、必要なところは伝えていただきながら、開校に向けて進めていただきたいというように期待しています。 義務教育学校の開校に向けての、教育委員会事務局関係課のプロジェクトでというところの話がありますけれど、プロジェクトの体制だとか、討議されている内容みたいなものをお話しできる範囲でお伺いできればと思います。 （事務局） この学校の教育内容についても地域の皆様も色々思いとかお考えがあるということ

	で、ご意見を伺いながら、５年先ということもありますので、教育委員会の中でじっくり検討していきたいと思います。 （委員長） 義務教育学校というのは一体どのようなことをやればいいのか、運営もそうですし、カリキュラム的にもそうですし、きちっと議論しなければいけないということで、文科省のサポートもあって、昨年度新しく学会を作りました。ようやく学会として、理論的にサポートしていこうというような形でもやっていますので、まだまだこれからの部分があるとは思いますが、是非横浜市教育委員会としても、支援と同時にまさに横浜型の義務教育学校について深めていただければと思っております。 （委員） 子どもたちの生活が、34 年度の 4 月から２つの小学校の児童が一緒になるわけですが、そういうときの準備とか、例えばその相互の小学校の交流とか、子ども達からするととても大きな変化だし、特に中学生については今まで過ごした友達とお別れして学校を移ることになりますので、そういうことについての配慮というのは、今までの例も含めてどのように考えておられるのか聞かせていただきたいと思います。 （事務局） これまで学校を新しくつくっていくということで進めてきたのは、人口急増に伴う分離新設というのが大変多いケースとしてありました。そういったノウハウは教育委員会にありますので、どういった形でスムーズに新しい学校に移行していくのかというのは、そういったところを生かしてやっていく形になると思います。 緑園については現在も東西の学校で、一緒に交流をしながらいろんな活動を進めています。新しい学校は、東西の緑園の学校を合わせた形になりますので、中学校で一旦別れたお子さん達も元いた小学校の仲間が再び集まるような形のイメージがあるのかなということで、人間関係においては他の全く新しい形で学校をつくっていくというよりは、少しスムーズかなという期待はあろうかと思います。いずれにせよ、そういった形で配慮しながらスムーズに学校生活が送れるように設置を進めていくことになろうかと思います。 （部会長） 地域と学校との連携につきましては、２つの小学校と地域との関係を強化するということで、具体的には活性化委員会という組織が８年前にできたのを機に、その中に小学校見守り事業を行う事業部を設けて一定の予算を組んで、緑園東小と緑園西小の事業を共通の事業にするように３つばかり設営し、一緒にやったりそれぞれでやったり、そういった活動をここ８年間やってきました。それが今回の開校にある程度関係して、良い方に行くのではないかというような実感がございます。 （委員長） 日ごろから地域の皆さんが子どもたちのために、自治会町内会が熱心にご協力いただいて、ある意味実績がここまでまとまってきたのかと考えております。 それでは、本検討委員会における審議の結果としては、部会でまとめていただいた、

	この意見書をもって本検討委員会の結論とし、「緑園地区義務教育学校新設に関する意見書」のとおり教育委員会へ答申する、ということでよろしいですか。 （異議なし） （委員長） それでは、平成 28 年５月 10 日付けで諮問のありました件について、別紙の「緑園地区義務教育学校新設に関する意見書」のとおり答申することを決定いたしました。 答申書及び意見書は部会長からご提出いただきたいと思います。いろいろな意見が出る中で、子どもたちの教育環境をよくするために部会長をはじめ部会委員の方々に熱心にご議論いただきました。ありがとうございました。 これにて、緑園地区義務教育学校開校準備部会に関する議事は終了とさせていただきます。
	（３）「上菅田小学校・笹山小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会における検討状況について （委員） これはまだ先の話ですよね。 （事務局） 将来的な両校の学校統合というのは、今の笹山小の市内最少の 84 人という人数を見れば致し方ないというのが両方の地域の皆さんの思いです。しかし、上菅田全体のコミュニティを考えなければいけないし、学校についてもこの状況を何とかしたい、ということで今後のスケジュールをまとめたいと考えています。 （委員） 全体的に子どもは減っていますから、統合というのは当たり前だと思います。統合となっても早い話、元に戻すだけでしょう。 （事務局） もともとこの地域には上菅田小学校しかありませんでしたので、そういった認識はあります。しかし、やはり学校がなくなるという心情の部分と、保護者や子どもの思いにどれくらい我々も寄り添えるかといったところで、期間が必要かと思います。 （委員） 子どもたちの為にもちょっとくらい遠いところに通っても統合で進めた方がいいと思います。 （委員） 前回の検討委員会でも、今後住宅ができると、もしかしたら子どもが増えるようなニュアンスがあったが、それはどうでしょうか。 （事務局） 笹山小学校の通学区域自体が市街化調整区域などもある地域でして、大きな人口流入

	というのは見込めない状況です。 （委員） もし、通学路が遠かったり、広く超えている場合には、バスの利用等の事例はあるのですか。 （事務局） 過去には青葉区で、かなり遠かったので公共交通機関のバスなどを利用するような子ども達もいます。 この地域につきましては、もともと上菅田小学校から分離した学校ですし、両校の学区を合わせるとちょうど中央には上菅田小学校がございまして、もし上菅田小学校が統合校の使用校舎となった場合には通学区域の端から通う子どもも、通学距離が 2 キロ以内には収まるような状況です。 （委員） 統合なら統合の中で、いろんな地域の意見を聞きながら統合していければいいと思います。 （委員長） 引き続き部会で皆さんの意見をうまく集約していただいて、地域と子どもたちにとって最善の考え方がまとまっていったらと思います。 （事務局） 地域からの声というのもしっかりと聞いて、学校施設も当然統合すると子どもの数も増えることになりますので、統合するのであればしっかり施設を整備するとか、そういったところの声も聞いて、地域と一緒に新しい学校をつくっていきたいと考えております。 （委員） 2 キロだと押し付ける考えではなく、もうちょっと柔軟性を持った考えで取り組んでいただきたい。2 キロと言っても、いろんな子供たちがいると思いますので、その辺も皆さんと話し合って考慮していただければと思います。 （委員長） 小規模ではなかなかできなかった教育活動が、適正規模となればこういう活動、教育ができますと、いわば教育本来のあるべき姿を、地域でご議論をいただきたいと思います。また、学校の状況、地域の状況、皆さん方の考え等も引き続き部会でしっかりとご検討をお願いします。
議事２	（事務局） 議事の（２）「通学区域と学校規模適正化等について」は、今後の事業の運営上、支障がありますので、横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第 31 条３号及び、横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱 第４条に基づき、非公開とさせていただきたいと思います。

	（委員長） それでは、この議事については、今後の事業に支障があるとのことですので、非公開とさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。 （異議なし） （委員長） それでは、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条３号及び、横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱第４条に基づき、この議事については非公開とさせていただきます。
資料・特記事項	【資料】 ・「会議次第」 ・「委員名簿」 ・「座席表」 ・日吉台小学校第二方面校開校に向けた開校準備部会の検討状況について ・日吉台小学校第二方面校新設に関する意見書 ・日吉台小学校第二方面校開校準備部会ニュース（第１号～第３号） ・緑園地区義務教育学校開校に向けた開校準備部会の検討状況について ・緑園地区義務教育学校新設に関する意見書 ・緑園地区義務教育学校開校準備部会ニュース（第１号～第４号） ・「上菅田小学校・笹山小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会における検討状況について ・「上菅田小学校・笹山小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会ニュース（第１号・第２号） ※非公開案件の資料は掲載しておりません。 【特記事項】 なし

（※）本会議は一部公開であるため、非公開案件の発言要旨は記載しておりません。